

データでみる軽トラ市

(その26)

愛知大学 三遠南信地域連携研究センター長
地域政策学部教授

戸田敏行

感謝と進展

2025年1月～2月にかけて、軽トラ市全体に関する出来事が2つあった。第1は、昨年12月25日にご逝去されたスズキ株式会社元会長鈴木修さんの写真パネル展示であり、長く軽トラ市を愛し、応援していただいたことへの感謝である。第2は、日本自動車会議所の「第4回クルマ・社会・パートナーシップ大賞」で軽トラ市が大賞を頂いたことである。以下に、その概要をお知らせしたい。

○鈴木修さんを偲ぶパネル展示

写真1をご覧いただきたい。軽トラ市関係者では、親しみをもって修さんと呼ばせていただいていたので、「修さん 軽トラ市の応援ありがとうございました」とのパネル表題とした。本稿でも、その様に呼ばせていただきたい。軽トラ市を代表する新城軽トラ市、雫石軽トラ市、川南軽トラ市、そして私ども愛知大学の四者による展示である。この写真は、昨年4月に発刊した「軽トラ市ーまちが活きる可動商店街」(交文社)で、修さんへのインタビューを行った際に、スズキ歴史館の軽トラ市コーナーで撮ったものである。本には表現しきれなかったが、多数の図を描きながら軽トラ市の魅力を語っていただき、筆者にとって忘れ難い経験でもあった。

修さん 軽トラ市の応援 ありがとうございました



長年、全国の軽トラ市をご支援いただいた、鈴木修スズキ株式会社元会長が2024年12月25日にご逝去されました。

新城軽トラ市・雫石軽トラ市・川南軽トラ市・愛知大学三遠南信地域連携研究センター一同、軽トラ市を育てていただいたことに心より感謝申し上げます。

2025年1月26日

©2025 愛知大学 三遠南信地域連携研究センター・戸田敏行

写真1 展示パネル

次のパネルは、「軽トラ市を愛された 修さん」として、各地の軽トラ市を訪問された時の写真である。修さんの行くところに人の群れが出来るが、来場者との写真は魅力的である。赤ちゃんが修さんに触れている写真、来場者と笑う写真、出店している自衛隊員と共に敬礼をしている写真などである。来場者以外では、出店された方や商店街のお店へのワンポイントアドバイスの写真もある。修さ



写真2 パネル展示風景

んは、各店舗で多量に商品を購入されるので、近くにいる人はお相伴にあずかることになる。

3枚目のパネルは、「軽トラ市を応援する修さん」である。2014年の第1回全国軽トラ市での記念講演、第2回全国軽トラ市でのパネラー出演などである。第2回の全国軽トラ市シンポジウムでは筆者がコーディネーターを務めていたが、シンポが終わりに近づいた時に、壇上で修さんがこちらに歩いてこられた。「これからインドに行くから」と言われて、即時に拍手でお送りしたことを思い出す。第3回全国軽トラ市では、ダイハツ工業(株)の伊奈アドバイザー(当時)と肩を組んで廻られている写真があり、印象深い。全国軽トラ市以外に、2019年東京モーターショー軽トラ市での写真がある。今日のジャパンモビ

リティーショー軽トラ市に繋がるが、軽トラ市と自動車業界との本格的な橋渡しである。

パネル展示は、まず1月26日に新城軽トラ市で行い、川南軽トラ市へ、5月から開催される雫石軽トラ市でも展示する予定である。新城軽トラ市の展示には、多くの皆さんがお越しになった。写真2に示すように、パネルを写真に収める人や新城軽トラ市が始まった2010年当時の関係者の方々、修さんのスタートとも言える豊川工場の元従業員の方も来られて感慨深いものであった。

○クルマ・社会・パートナーシップ大賞受賞

「クルマ・社会・パートナーシップ大賞(以下、CSP大賞)」は、自動車関連分野の総合団体である一般社団法人日本自動車会議所によって設けられた賞であり、「CSP大賞は、自動車業界で働く550万の人々と自動車ユー

ザーによるさまざまな貢献に『ありがとう』と感謝を伝え、それぞれの素晴らしい取り組みが世の中に広がっていく一助になればとの思いから、2021年に創設し、日刊自動車新聞社と共催しています。(同会議所HPより)」とされている。第4回は、全体で25事業が選考委員会によって選定されている。本稿をお読みの中にも、これまで関連を持たれた方がおられるのではないと思う。

25件の中から、「大賞」、「選考委員特別賞」、部門賞として「モビリティ・ソリューション賞」、「地域・コミュニティ活性化賞」、「SDGs貢献賞」、「自動車ユーザー連携賞」が挙げられており、軽トラ市を大賞に選定していただいた。

全軽自協事務局のおすすめもあり、全国軽トラ市でまちづくり団体連絡協議会（軽団連）を代表に、雫石軽トラ市、新城軽トラ市、川南軽トラ市、愛知大学の共同申請である。テーマを「軽トラ市による商店街活性化活動」として申請したが、「軽自動車を可動店舗として定期市を継続実施し、商店街の活性化や地域活動人材育成を図る『軽トラ市』の取り組みと全国連携事業」と評価していただいた。軽トラ市の継続性をベースとして、商店街活性化とその背景にある地域活動人材育成に注目していただいた。特に、全国連携事業であるという評価は嬉しいものである。

筆者は、個別軽トラ市の活動を軽トラ市1.0、軽トラ市の連携を軽トラ市2.0、軽トラ市による社会変革を軽トラ市3.0と考えてい



写真3 CSP大賞表彰式（軽トラ市グループ）

るが、軽トラ市2.0の評価でもある。個別の軽トラ市では、雫石軽トラ市が2011年度国土交通省地域づくり表彰の「全国地域づくり推進協議会会長賞」を、川南軽トラ市が2015年度「第4回21世紀商工会グランプリ」を受けているが、今回は軽トラ市全体に対する評価である。申請者は三大軽トラ市＋愛知大学であるが、全国の軽トラ市への評価に繋がるものと考えていいだろう。写真3は表彰式の軽トラ市グループである。筆者らは軽トラ市の全国調査を続けているが、軽トラ市の定義としている①軽自動車店舗、②定期開催、③地元主導運営の条件を満たすものが、2024年段階で全国150程度となった。これらから軽トラ市3.0に広がりを持つと期待するが、今回の受賞は将来を考える好機でもある。

さて、本稿に「感謝と進展」とサブタイトルをつけたが、軽トラ市をリードしていただいた修さんへの感謝があり、CSP大賞の受賞は恩返しの一部となる進展ではないかと思われされる。引き続き、皆さま方にも軽トラ市へのご支援をお願いしたい。